

漢法苞徳塾資料	No. 304
区分	診断論・脈診
タイトル	六部配当諸家の説
著者	八木素萌
作成日	

左			右	
少陰心・太陽小腸	a/b	寸	太陰肺・陽明大腸	a/b
心・膻中	e/f/d/g		肺・胸中	e/f/d/g
心・心包	c		肺・膻中	c
厥陰肝・少陽胆	a/c/b	関	太陰脾・陽明胃	a/c/e/f/b/d/g
肝・膈	e			
肝・胆・膈	e/f			
肝・胆	d/g			
少陰腎・太陽膀胱	a	尺	厥陰心包・少陽三焦	
腎・腹	e		腎・腹	e
腎・膀胱・大腸	c		腎・大腸	f/b
腎・膀胱・小腸	f/d		腎・三焦・命門・小腸	c
腎・小腸	b		腎・三焦	a
腎・小腸・膀胱・前陰 の疾病	g		三焦・命門・大腸	d
		腎・大腸・後陰の疾病	g	

寸・関・尺の各部の最上段は18難の配当

- a. 王叔和『脈経』
- b. 李瀕湖（李時珍）『瀕湖脈学』
- c. 張景岳『景岳全書』
- d. 黄宮綉『脈理求真』
- e. 内経

（滑伯仁の“診家枢要”の解説では‘尺の両傍’を‘尺の内外’と解し‘附上’を‘関’と解し、‘上附上’を‘寸’と解している、今これに従う。尚“診家枢要”の配当はこれに従う。尚“診家枢要”の配当は18難と同じ）『素問』脈要精微論第17

- f. 呉謙『医宗金鑑』
- g. 徐春圃『古今医統』

◇三部配当として、(三焦配当とも言う) ～

☆上部 (寸部)

膈<横隔膜>より上部に疾病がある事を主る。

頭部・胸部・頸項部・背部・手腕部・肩部・顔面部などの病。

☆中部 (関部)

膈以下臍までの間の疾病がある事を表わす。

臍=腹・季脇<脇の下=側腹部=肘脇と漢法では呼ぶ>の部位の病を主る。

温病学では中焦部としていて、胃脾腸<胆を加える説もある>の病を主ると見なしている。

☆下部 (尺部)

臍以下より足に至る部位の病を主る。

温病学では下焦 (肝・腎・膀胱・生殖器系・骨盤内・腰・臀部・足) に配当する。

この三部配当の説は『難経』に始まり、後代にも異論は見出せない。

☆ (註)

『鍼灸治療の真髄—経絡治療五十年』で岡部素道は、心包は左寸に配すべきであろうと主張した、この書は絶筆であるだけに注目すべきものと思う。